

KANDA UNIVERSITY OF INTERNATIONAL STUDIES

神田外語大学

Communication builds a peaceful world.

外務省在外公館派遣員

世界の日本国大使館・
総領事館で働く
仲間たち



言葉は世界をつなぐ平和の礎
神田外語大学

1-4-1 Wakaba, Mihama-ku, Chiba-shi, Chiba 261-0014 Japan
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1
TEL : 043-273-2826 (アドミッション&コミュニケーション部)



「外務省在外公館派遣員制度」で 国際社会を舞台に活躍する キャリアの一步を踏み出そう

外務省在外公館派遣員とは、日本の大使館・総領事館などで主に外交の後方支援業務を行うスタッフのことです。1973年以来、外務省の委託を受けて国際交流サービス協会が運営している「外務省在外公館派遣員制度」によって各国に派遣されています。在外公館派遣員になるには、語学力に加え、コミュニケーション能力、グローバルマインド、基礎教養などが必要です。選抜試験に合格して在外公館に派遣員として着任すると、在学中でも卒業後でも即戦力として外交の最前線で働くことができ、異文化を肌で感じながら、学び、成長できます。

Q 在外公館とはどんなところ？

A. 世界各国に日本が設置している大使館・総領事館・政府代表部のこと。日本とその国の外交および邦人保護などに従事する機関。現在、世界各国に200を超える在外公館があります。

大使館

基本的には各国の首都に置かれている。日本を代表する政府機関で、相手国政府との交渉や連絡、政治・経済などの情報の収集・分析や、日本を理解してもらうための広報文化活動を行う。在留邦人の生命や財産の保護、戸籍、国籍、旅券、各種証明の手続き、現地から日本を訪問する外国人へのビザ(査証)発給も行う。

総領事館

世界の主要都市に置かれている。管轄地域の在留邦人の保護、通商問題の処理、政治・経済などの情報収集、広報文化活動、各種証明の発行などを行う。

政府代表部

国際機関に対して、日本政府を代表する機関で、国際連合、OECD(経済協力開発機構)、EU(欧州連合)などにある。大使館と同じく、国際機関での外交活動を行うが、邦人保護やビザ発給などは行わない。

Q 着任したらどんな仕事をするの？

A. 主に語学力を活用して在外公館の業務を支援します。公用の出張者が来訪する際の便宜供与や会計・庶務・領事業務の補佐、文書の翻訳や作成など業務は派遣先によってさまざまです。

便宜供与

空港への送迎、会議・視察などの随行、案内、現地企業などの訪問調整、航空券、ホテルなどの各種アレンジ

官房業務補佐

会計・庶務の補佐や文書作成、備品の管理

領事業務

旅券、ビザ発給の事務補助、邦人援護

広報文化業務

広報・文化活動の事務補助



Q 任期を終えた後のキャリアは？

A. 原則2年の任期を終えた後のキャリアは多岐にわたります。神田外語大学の卒業生も、外務省職員として本省や在外公館で勤務したり、民間企業で国際的な業務に関わったり、海外の大学院に留学したり、派遣員の経験を活かして多方面で活躍しています。

神田外語グループ(神田外語大学・神田外語学院)では、2009年から派遣員選抜試験の勉強会を開催し、これまでに190名の仲間たちが76カ国の外務省在外公館派遣員試験に合格しました。さあ、あなたも国際社会で活躍する先輩たちに続こう！



Special Interview

吉川元偉・元国連大使に聞く

海外でのキャリアの一步を踏み出す意義



元国連大使
神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所
客員教授

吉川元偉

YOSHIKAWA Motohide
1951年、奈良県生まれ。高校時代、AFS奨学生として米国に留学。国際基督教大学(ICU)を卒業後、74年に外務省入省。国際連合日本政府代表部特命全権大使・常駐代表、在スペイン日本国大使館特命全権大使、初代アフガニスタン・パキスタン支援担当大使、経済協力開発機構日本政府代表部特命全権大使などを歴任。2016年退官。英語、スペイン語、フランス語を話す。

何か新しいことに挑戦したいと考えている学生にとって、派遣員の制度は魅力的な選択肢だと思います。若いときに海外で生活し、多様な価値観にふれることには大きな意義がありますし、便宜供与などの仕事を通じて、政府の要人やさまざまな国の国王や元首と仕事で関われるという特別な経験も得られます。在外公館のスタッフとして、給与や手当が保証されていることも留学とは異なり、大きなメリットと言えるでしょう。

長年外交官として一緒に仕事をしてきた立場から言えば、好奇心と柔軟性がある人は大歓迎。派遣員の任期は長くありませんが、どのような仕事にも一生懸命取り組む人は2年間でも大きく成長するものです。だからこそ、派遣員に応募する際には「派遣員の経験を得た後に何をするのか」、帰国後の進路についてもしっかりと考えてほしいと思います。

大学で派遣員として任地に行く人に私が必ず伝えているのは、配属さ

れた任地を好きになってほしいということです。与えられたポストが希望と異なる場合もあるでしょうが、嫌々仕事をしていてもいい結果が出るはずはありません。文化の違い、仕事に対する考え方の違いに戸惑うことはあっても、その国を好きになると努力をする姿勢が大切です。

今後の日本は、海外とのつながりをさらに強めていくでしょう。日本に住む外国人も増えるはずで、外国人としっかり話ができるよう、まずは語学力を身につけ、その上で法律、経済、テクノロジーなど、自分なりの知識・スキルを身につけるといいですね。神田外語大学で学んだ語学の実践プラスアルファの経験ができる機会として、派遣員制度を大いに活用してください。

文=木下昌子

インタビュー動画はこちら！



インタビュー動画を公開

記事中のQRコードをスマートフォンなどのリーダーで読み込むと、神田外語大学のウェブサイトで見ることができます。

世界で活躍する仲間たちの現地レポート 外務省在外公館派遣員の現在

コロナ禍で海外と自由に行き来するのが困難な状況下でも、各地の日本国大使館、総領事館で神田外語大学の学生や卒業生が奮闘しています。現地での仕事の様子を聞きました。



政府専用機の前で。当初予定の2年間の任期を延長中だ

 **在アラブ首長国連邦日本国大使館**
Embassy of Japan in the United Arab Emirates *Abu Dhabi*

平田善福さん HIRATA Yoshifuku

国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻 3年
東京都立紅葉川高等学校出身

エネルギーギッシュな中東の国で 前だけ向いて全力疾走中！

コバルトブルーの海、白壁のモスク、黄金色の砂漠。アラビアンナイトそのままの風景の中に、近未来的な摩天楼が林立する都市アブダビ。アラブ首長国連邦の首都であり、中東の経済の中心地だ。

平田善福さんがアブダビにある日本国大使館に派遣されたのは2018年のこと。大学3年次の秋だった。

「じつを言えば、現地についての知識はほぼゼロでした」と平田さんは振り返る。しかし実際に住んでみてすぐに、「ここは

まさしく『中東』なんだ」と実感したそうだ。「ヨーロッパからも、アジアからも、アフリカからも人や物が集まり、国際色豊かでエネルギーギッシュな国です。独自の文化や宗教を守りながらも、国際的な地位を確保しようとする、人々の熱い思いを感じました」

平田さんが「国と国をつなぐ仕事をしてみたい」と考えたのは高校生の頃。理由のひとつは、母親が中国出身で異文化交流が身近だったこと。もうひとつは、空

港で働く人たちを見て、「将来はパイロットになりたい」と憧れたことだ。「でも、当時の僕は成績がよくなくて。とてもそんな仕事に就ける学力じゃなかった。それでも何か一つ本気で勉強すれば、それが自分の武器になる、きっと自分は変われると思いました」

平田さんが選んだ武器、それが英語だった。英語教育に定評のある神田外語大学に進学し、そこで親しくしていた先輩が在外公館派遣員としてネパールに派



 在外公館派遣員を志す仲間へ

Q 大学の学びや活動で活かされたことは？

A すぐに役立ったのは「企業英語」という授業。英語でのメールの書き方などを教わりました。今も「もっと教わりたい」と思っています。

Q 派遣員をめざしている仲間へのエール

A 「誰にも負けない」と思える何かをもてる人は強い。何が得意かわからなければ、目の前にあるものに全力で取り組んでみてください！



迎賓館も兼ねるホテル「エミレーツ・パレス」を眼下に望むホテルを視察。要人の来訪時には多くのホテルを手配する



インタビュー動画はこちら！

Photo Album



アラブ首長国連邦の観光都市ドバイまで買い物に出かけることも



国籍も年齢も関係なく友だちが増えた！



神田外語大の先輩と砂漠で再会

大学の派遣員試験の勉強会(→P19)で知り合った先輩(右)の派遣先クウェートを訪ねた。パキスタンに派遣された先輩(中)も駆けつけた

居住マンションで知り合った多国籍の友人たちと砂漠キャンプへ

遣されることになった。「在学中に大使館で働けるチャンスがあるなんて」と、難関の試験に向けて必死に勉強し、みごと派遣員の切符を手にしたのだ。

首相が乗った政府専用機を 胸いっぱいで見送った日

現在、大使館での平田さんの仕事は事務が中心。大使館に届く大量のメールを読み、必要な書類や資料を作成する。日本の要人や出張者の来訪に合わせ、車やホテル、会食の手配を任されることもある。印象深いのは、2020年1月の首相のアブダビ訪問だ。

「館全員がチームになって総理をお迎えしました。僕は要人のパスポートを管理したので、『なくしたら日本は大変なことになる』とめちゃくちゃ緊張しました」

首相の滞在中は、早朝から深夜まで休むことなく職務をこなし。外交の最前線を目の当たりにし、「ここでのパフォーマンスが日本と中東のみならず、世界情勢にも影響を与えるのだ」と身震いしたという。すべての日程を終え、首相の乗った政府専用機が飛び立つと、アブダビの空に見えなくなるまで見送り続けた。胸がいっぱいになった。

「人生で初めて、自分は日本人なんだと心から感じました。そして、大使館のすべての職員が日本の代表として誇りをもって働いていることを実感しました」

アブダビに来て2年半。無我夢中で過ごす日々の中で、「自分は大使館の役に立っているのか」と迷うことも多いという。しかし、所属する官房班の上司は平田さんをこう評価する。

「彼は日本国大使館の元気印。実践で培

った英語力とコミュニケーション能力で、ホテルの担当者からも『FUKU!』と気軽に声をかけられる存在です。彼の人脈と人徳に救われる場面は何度もありました」

平田さんの任期はもうすぐ終わる。今後の進路は復学してから熟考する予定だ。「ここに来るまでは、日本で就職して国際的な仕事に就くイメージしかなかったのですが、アブダビやドバイで起業して、自分の腕一本で生きる人も大勢います。道は一つじゃないと知りました」

人生の本舞台は常に将来に在り——平田さんが大切にしている言葉だ。

「大学の恩師であるグローバル・コミュニケーション研究所の久保谷富美男先生から教えていただいた、幕末生まれの政治家・尾崎行雄の言葉です。この言葉のように将来の可能性を信じて、へこたれず、前を向いていきたいと思っています」



首相訪問時の空港で、新しい政府専用機をバックに撮影



在外公館派遣員を志す仲間へ

Q 大学の学びや活動で活かされたことは？

A 2年次から派遣員の受験を決めていたので、グローバル・コミュニケーション研究所の試験の勉強会でしっかり準備できました。

Q 派遣員をめざしている仲間へのエール

A 派遣員は、語学のブラッシュアップにも最適なポジションです。休暇もしっかり取れるので、プライベートも楽しめますよ！

 **在インドネシア日本国大使館**
Embassy of Japan in Indonesia

Jakarta

吉永真衣夏 ジャネシイ さん YOSHINAGA Maika-janesi

国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーション専攻 2019年卒業
東京都立小平高等学校出身

失敗も次に活かせる大切な経験 現地コミュニティで休日も全力投球

「そんな！ あんなに念入りに打ち合わせをしたことなのに……」

「そんなの知らない、聞いていないよ」

そう言い出した空港職員を前に、在インドネシア日本国大使館で在外公館派遣員を務める吉永真衣夏ジャネシイさんは青ざめた。2020年1月、首都ジャカルタを訪れた外務大臣が全日程を終え、帰国便に搭乗する直前の出来事だ。

日本からインドネシアを訪れる要人がスムーズに出入国し、現地の予定をこな

せるよう調整するのは、派遣員の重要業務のひとつだ。吉永さんは何週間も前から、空港のVIPルームの利用者が多くなることを伝えていた。この日は粘り強く交渉してなんとか要望を通したものの、大臣の搭乗は予定より遅れてしまった。

「日本の感覚で細部まで徹底的に事前確認していましたが、ここでは詳細を詰めすぎるとかえってあだになることや、担当者に共有されないこともある。重要なことに絞って事前調整し、あとは流れに

任せることも必要なのだと学びました」

その9カ月後、今度は首相がジャカルタへ。配車班、宿舎班などの業務があるなか、迷わず「空港班」を志望した。

「前回の教訓を活かしてメリハリを利かせた準備ができて、首相の出入国当日はスムーズにオペレーションできました」

吉永さんは日本生まれ日本育ちだが、父親がインドネシア人だ。しかし当初インドネシア語は全く話せず、実家を訪ねても父の通訳がないと祖父母とコミュニ



インドネシア最大の日本イベント「ジャカルタ日本祭り」で現地の学生と



自衛隊記念レセプションでゲストに日本酒を紹介



首相訪問時、空港スタッフとともに

Photo Album

上司とインドへ旅しました！



休暇に近隣国へ旅行するのも任期中の楽しみのひとつ



中学時代から続けているバドミントン。現地職員と出勤前に一汗



赴任してすぐに大使館の現地職員の結婚式に招待された



大使館員と、ASEAN代表部員が総出で駅伝に出場

華やかな衣装を着られるのも楽しみ！



毎週日曜には伝統舞踊のレッスン。結婚式やレセプションに呼ばれて、華やかな衣装と踊りで盛り上げる。テレビの音楽番組にバックダンサーとして出演したことも

ケーションができなかったという。「家族なのにおかしい」と感じた吉永さんは、大学在学中に自分のルーツであるインドネシアに向き合うことを決めた。

高校時代から海外で働くことを夢見て大学では英語を学び、派遣員試験の勉強会にも参加していたが、インドネシア語での受験を決意。大学3年でインドネシアに10カ月間留学して語学を習得し、念願かなって派遣員のポストを射止めた。

新型コロナウイルス対応でテレワークも経験

大使館では要人対応のほか、着任・離任する外交官や大使館員の生活支援、出張者対応、インドネシア語を話さない職員の通訳などを務める。2020年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、交代で

在宅勤務をしながら乗り切った。

せっかくのジャカルタでの生活、吉永さんは業務以外の時間も地元の人たちとさまざまな形での交流を楽しんでいる。出勤前は週に1度、大使館の現地職員と一緒にバドミントンの練習に汗を流す。「バドミントンはインドネシアの国技で、人気のスポーツです。軽い気持ちで参加しましたが、だんだんハードな部活並みに熱中するようになって、始業ギリギリまで試合に夢中になってしまうことも」

地元のコミュニティにも興味をもち、伝統舞踊教室に飛び込んだ。多民族国家であるインドネシアでは、さまざまな民族の伝統舞踊を体験する教室が若い女性の間で人気だ。参加した教室は学生が中心で、レッスン後に仲間と屋台に行ったり、家に誘われたりするようになった。「友人が増え、若い女の子が使う生きた

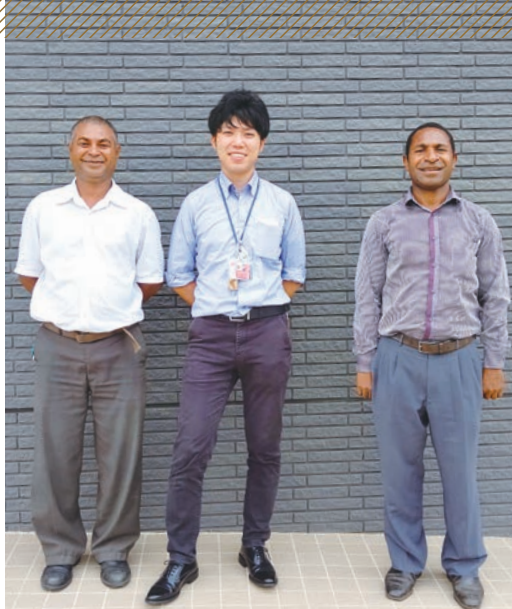
インドネシア語が学べました。華やかな民族衣装を着て踊れるのも最高に楽しい」

自身のルーツなのにどこか壁を感じていたインドネシアが、ようやく「もうひとつの故郷」になった。ジャカルタでの生活を通してもう一度学びたい意欲が湧いてきたので、離任後はいったん帰国して専門スキルを身につけるつもりだ。どの道に進もうと、インドネシアと関わり続けたい気持ちは変わらないという。

「日本とインドネシアの『当たり前』は違うけれど、私たちはもっと理解を深め合えるはず。これからも大切な二つの国を行き来して、絆をつないでいきたい」



インタビュー動画はこちら！



ハーバーサイドと呼ばれる、飲食店や企業のビルが立ち並ぶ場所

現地職員とは英語で話す。現地には800以上の言語があるが、英語ができる人は多い。「治安は不安定で、コロナ禍ではありますが、現地の人々とお互い心を開き、協力しながら、生活しています」(土屋さん)



インタビュー動画はこちら！

在外公館派遣員を志す仲間へ

Q 大学の学びや活動で活かされたことは？

A 大学の紹介で、千葉県で開かれた世界女子ソフトボール選手権大会で通訳のボランティアをしたことや、カナダ留学など、たくさんあります。

Q 派遣員をめざしている仲間へのエール

A 派遣員の仕事は、まだ何がしたいかわからない人にとっても挑戦しがいがあるものです。積極的にチャレンジしてください。

Photo Album



パプアにはめずらしい野生動物がたくさん

休日はポートモレスビー自然公園を訪れたり(右)、釣りに行ったり(左)、豊かな自然を積極的に楽しんでいる



在パプアニューギニア日本国大使館
Embassy of Japan in Papua New Guinea

Port Moresby

土屋祐太郎さん TSUCHIYA Yutaro

英米語学科 2020年卒業
千葉県立匝瑳高等学校出身

いつかパプアと日本の関係を深める仕事をしてみたい

赤道のすぐ南に位置する島国・パプアニューギニア。「南太平洋最後の楽園」と称され、美しい自然と天然ガスをはじめとする豊富な資源で知られる。土屋祐太郎さんは、世界中で新型コロナウイルスの感染拡大が加速した2020年3月、首都ポートモレスビーにある日本国大使館に派遣員として赴任した。

「現地で3月から出入国が制限され始めたので、ギリギリのタイミングでした。知らない土地で感染してしまったり、という心配もありましたが、厳しい出入国制限をしており、職場でもオンライン会議を導入するなど感染防止に努めているので、落ち着いて仕事を始められました」

赴任後は官房班の所属となり、書類の作成、要人や外務省の出張者の空港への

送迎やホテル予約など滞在中のサポートをするのが主な仕事だ。

「20年8月に外務大臣が訪れた際には、ホテル側とのやりとりを担当し、間取りやサービスのアレンジをしました。館員の皆さんと協力して、無事に滞在を終えられた際は大きな達成感がありました」

館員同士はプライベートでも仲が良く、休日でも上司と過ごすことが多い。コロナ禍で制限もあるなか、状況に応じて釣りやダイビングなどに出かけることもあるという。

「豊かな自然を楽しむアクティビティーが充実しています。また在留邦人の交流も盛んで、JICAや民間企業の方とテニスをすることもあります」

現地の生活を積極的に楽しむ土屋さん

だが、当初は治安の悪さが不安だった。

「実際に来みると気軽に挨拶してくれるフレンドリーな人が多く、パプアが好きになりました。ただ、やはり都市部では犯罪も多発しており、貧困や教育普及の問題などさまざまな課題があります」

高校時代から英語を使った仕事に就きたいと考えていた土屋さん。大学3年次にカナダに留学したり、通訳ボランティアに参加したり、積極的に経験を積んだ。「将来につながればと、何でも挑戦してみました。派遣員をめざしたのも同じ思いからです」

派遣員として勤務して1年。日々の仕事から多くのことを学んでいるという。「いつか、パプアニューギニアと日本の関係を深める仕事ができたらいいですね」

神田外語大学から世界へ 外務省在外公館派遣員経験者の声

神田外語大学在学中または卒業後、世界各地にある在外公館で活躍した卒業生の声を紹介します。



元在バルセロナ日本国総領事館派遣員
Consulate-General of Japan in Barcelona

杉山梨里さん

国際コミュニケーション学科
2009年卒業

帰国後は駐日大使館で働く目標もかなえた

いまでは信じられませんが、私が派遣員をめざしていた当時、勉強会の参加者は3、4人で細々としたものでした。在バルセロナ日本国総領事館では、公、では日本語での仕事、私、ではスペイン式での余暇、とメリハリのある生活を送ることができました。帰国後は駐日大使館で働くという目標もかなえました。大学在学中に独学で始めたスペイン語の習得、勉強会を主宰する久保谷富美美先生との出会い、派遣員試験の受験に向けた猛勉強などが現在の礎になっています。派遣員の経験を人生のキーポイントにできるよう取り組んでください。



元在パキスタン日本国大使館派遣員
Embassy of Japan in Pakistan

山下拓美さん

国際コミュニケーション学科
国際ビジネスキャリア専攻 2021年卒業

二国間関係の進展に派遣員として貢献できた

大学で学んだ語学を活かし、何か新しいことに挑戦したいと考え、派遣員をめざしました。在パキスタン日本国大使館駐在中は外務大臣ら政府の要人がパキスタンを訪れ、またパキスタンの外務大臣も訪日し、二国間関係が大きく進展しました。派遣員として担った受け入れ態勢の構築などを通して、自分自身がわずかでも二国間関係の進展に貢献できたことは、一生ものの経験です。帰国後は就職活動をし、半導体製造装置のメーカーに勤務することになりました。入社後はパキスタンでの経験を活かして活躍できればと思います。



元在ホンジュラス日本国大使館派遣員
Embassy of Japan in Honduras

小林翔さん

イペロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻 2018年卒業

試験は専攻言語ではないスペイン語でチャレンジ

大学ではブラジル・ポルトガル語を専攻し、ブラジルに交換留学もしましたが、派遣員試験はスペイン語で受験しました。ポルトガル語より、スペイン語で募集する公館が多く、両言語の習得をめざしていたのでチャレンジを決めました。赴任先のホンジュラスでは要人などの訪問対応、通訳・翻訳、会計業務のほか、日本文化イベントの運営や大使館のSNS、ホームページの掲載文作成など多岐にわたる業務を担当しました。現地では、硬式野球チームに所属したり、豊かな自然に心を洗われたり、精神的にも身体的にも健康に過ごせました。



元在エジプト日本国大使館派遣員
Embassy of Japan in Egypt

鬼澤磨琴さん

英米語学科 2014年卒業

アラビア語習得をはじめ赴任国の魅力を発見

大学在学中から派遣員の勉強会に参加していましたが、卒業後は第一志望だった映画と海外ドラマの宣伝会社に3年勤務しました。ただ、派遣員のことは頭の片隅にあり、受験を決めました。赴任先のエジプトでは現地職員とは英語で話していましたが、もっとコミュニケーションを取りたいと思い、仕事の後に家庭教師をつけてアラビア語を学びました。大使館がある首都カイロの喧騒から離れたくなったときには、海に潜ったり、満天の星の下、砂漠でキャンプをしたりしました。赴任国の魅力をたくさん発見し、広い世界を見て自分の可能性を広げてください。

外務省在外公館派遣員 OB・OGのキャリア

在外公館派遣員を経て、さまざまな業界に進んだ神田外語大学の卒業生たち。
海外で培ったグローバルな視野や語学力を活かして活躍中です。



外務省 大臣官房

栗原早紀さん

KURIHARA Saki
英米語学科 卒業
元在バーレーン日本国大使館派遣員

半年後には、外務省で働きたいと思うように
バーレーンに赴任して

Photo Album



世界遺産「バーレーン・フォート」。
アーチはイスラム圏特有の意匠

プレス対応やロジ（後方支援）の業務が多く、派遣員の経験が役立ったという。

「ほぼ毎月、総理や大臣の海外出張に同行しました。仏、伊、米など6カ国を1週間で回ったときは体力的にも大変でしたが、貴重な経験ができました」

入省3年目の現在は、同じ課で大臣会見の準備などを担当している。

「まずは今の仕事でもう少しキャリアアップ、その後は他省庁に出向して外務省の外から外交や安全保障に携われれば」

外務省には結婚、出産後も一線で活躍する女性が多いのも、励みになっている。

「将来はまた大使館で働いて、日本の文化を発信する仕事もしてみたいです」

派遣員として奮闘した日々は、キャリアの原点。バーレーンでよく食べた本場の「フムス（ひよこ豆のペースト）」は、今も定期的に食べたくなる思い出の味だ。

在外公館派遣員を志す仲間へ

Q 大学の学びや活動で活かされたことは？

A 外国人の先生方と話す機会が多かったこと。赴任直後から緊張することなく、英語でコミュニケーションが取れました。

Q 派遣員をめざしている仲間へのエール

A 自分に合った仕事を見つけるには、好きなことを突き詰める気持ちが大切。大使館や領事館の一員としての仕事は、やりがいがあります。

外務省 大臣官房
儀典外国訪問室

渡邊 舜さん

WATANABE Shun
中国語学科（現アジア言語学科
中国語専攻）2020年卒業
元在大連領事事務所派遣員
千葉県立八千代高等学校出身

Photo Album



ロシア統治時代の大連の街並みを再現した「ロシア風情街」

日本と世界の関わり方を 仕事を通して学び続けたい

渡邊舜さんが派遣員として赴任した大連は、中国の東北地方に位置する人口約600万人の都市。日系企業も多く進出しており、親的な街としても知られる。

「3年間の滞在でわかったのは、中国人は遠回しな物言いを嫌うということ。打ち解けるためには、本音でぶつかることが重要です。一度仲良くなるととても面倒見がよく、情に厚い人が多いですよ」

大学入学まで、中国語を学んだことはない。だが「中国」という国には、以前

から興味があった。

「当時、日中関係が良好ではなかった背景もあり、報道などで聞く話は全部本当なのかなって。実際はどんな国なのか、自分の目で見てみたいと思っていました」

派遣員として現地に赴任したのは、3年生の終わりだった。領事事務所では出張者のサポートなどのほか、中国語の通訳業務に携わることも。聞いた言葉をそのまま、正確に訳す難しさを感じた一方で、語学力が現場で通用したことは自信につながった。

トラブルに巻き込まれた日本人の保護など領事業務の補助にも携わる中で、「次第に領事の仕事に魅力を感じるようになった」という渡邊さん。任期中に外務省一般職試験に合格し、帰国後すぐ入省した。そのため大学はいったん退学したが、当時の上司から「仕事と学業は両立できる。学士を取ってみたら？」と勧められ復学。2020年、卒業を果たした。

「その上司も仕事をしながら大学院に通い、博士号を取った経験がある人。職場には教養の高い先輩が多く、いい刺激をいただいています」

入省当初に配属されたアジア大洋州局地域政策参事官室で歴史問題を担当して

からは、「日本と世界の関わり方を考えるためには、戦争も含めた過去の出来事を正しく理解する必要がある」と感じ、改めて日本史の勉強を始めた。

「出張先の海外でも日本の歴史について尋ねられることは多いので、しっかり学び続けたいと思っています」

現在は大臣官房儀典外国訪問室で、首相や大臣の外遊先での交通手段、宿泊施設の手配を主に担当している。将来の目標は、海外に滞在する日本人の安全を守る「領事のスペシャリスト」だ。

在外公館派遣員を志す仲間へ

Q 大学の学びや活動で活かされたことは？

A 大学でイチから学んだ中国語。3年次には台湾に留学したため、赴任直後は言葉の違いに戸惑いましたが、すぐに慣れました。

Q 派遣員をめざしている仲間へのエール

A 学生でありながら、海外で就労を経験できるのが派遣員の魅力。そこで養う対応力や語学力はどんな仕事にも役立ちます。



インタビュー動画はこちら！

Photo Album



バーレーンの民族衣装を試着しました

現地職員と遊びに行った「オールド・マナマ」という古いバーレーンの街並みが残る地区で

Photo Album

日本のPRも大使館や領事事務所の仕事



派遣員として関わった「日本観光展」で。大連市の友好都市・京都府舞鶴市のPRキャラクターと



外務省 大臣官房国際報道官室

小林瑞季さん

KOBAYASHI Mizuki
英米語学科 2016年卒業
元在アイルランド
日本国大使館派遣員
千葉県立君津高等学校出身



インタビュー
動画はこちら!

元在アイルランド日本国大使館派遣員の小林瑞季さんは外務省の国際報道官室で働いている。首相や大臣の外遊時に同行して記者ブリーフィング(説明)や取材、記者会見などを調整するのが主な仕事だ。「携わった取材が現地の主要紙の一面に掲載されたりするとうれしいですね」

派遣員として赴任中の2017年、日本とアイルランドの外交関係樹立60周年を迎えた。出張者や要人訪問の対応業務のほか大使館主催の交流行事があり、イベント開催や広報などにも携わった。「仕事の準備過程がお祭りのように感じ

環境の変化や人との出会いを通じて、世界が広がりました

Photo Album



友人と駅にあるピアノを演奏

「アイルランドの人たちは穏やかで親切。困ったときに何度も助けられました」(小林さん)

られ、笑いの絶えない日々でした」フルマラソンに挑戦するなど休日も館員や現地の人と充実した日々を過ごした。「派遣員を経験し、環境の変化や人との出会いを通じて、世界が広がりました」

JICA 企画調査員

平塚竜一さん

HIRATSUKA Ryuichi
国際言語文化学科ポルトガル語専攻
(現イベロアメリカ言語学科ブラジル・ポルトガル語専攻)2014年卒業
元在モザンビーク日本国大使館派遣員
千葉県立松戸国際高等学校出身

Photo Album

同僚は性別、世代の異なる
多国籍メンバーたち



国境なき医師団でもモザンビークへ。ミッションチームメンバーとの昼食タイム



国境なき医師団のナイジェリアミッションチーム。難民キャンプ支援として派遣



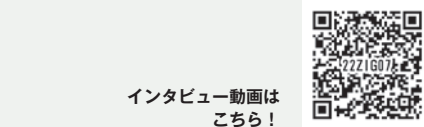
派遣員時代にふれた人道支援の道へ世界の不公平をなくしたい

アフリカ最大のポルトガル語人口を擁する国、アンゴラ。元在外公館派遣員の平塚竜一さんは、JICA(国際協力機構)の企画調査員として現地で活躍中だ。現地が必要とする支援と、政府の外交政策を受けてJICA本部が考えるODAの方針をすり合わせ、具体的な支援プロジェクトを企画するのが平塚さんの仕事だ。保健とインフラ領域を担当し、日本の母子手帳の導入など意識啓発を図るための企画を進めている。

産婦人科の現場では医療物資が不足し、

妊婦の健康に対する社会の意識も低い。「限られた予算とリソースの中で、最も大きなインパクトを与えられる取り組みは何かということもいつも考えています」この仕事を選んだのは、同じアフリカの在モザンビーク日本国大使館に赴任した派遣員時代に、人道支援の必要性を痛感したことがきっかけだ。任期終了後は国境なき医師団のナイジェリアの難民キャンプで人員や物資運搬などに取り組んだ。「派遣員として政府の経済協力に携わり、国境なき医師団では現場を経験しました。次は、上流、と現場の中間にあたる立場で支援策をデザインしてみたいと感じ、JICAで企画立案する仕事を選びました」

赴任前にはベルギーの大学で紛争による人権侵害を学ぶなど、一貫して人道支援に携わる平塚さんだが、神田外語大学4年当時は大手印刷企業への就職が決まっていた。「せっかく覚えたポルトガル語を忘れないよう、何か目標を決めよう」と勉強会に参加し、派遣員試験を受験。思いがけず合格し、迷った末に入社を辞退し、チャレンジを決心したという。「かつての自分のように、何をやりたかがわからないという人にこそ、派遣員は向いていると思います。語学はもちろん



インタビュー動画はこちら!

家族を連れて海外赴任する女性館員の姿に衝撃を受けました

外務省 国際協力局 政策課

吉田沙季さん

YOSHIDA Saki
英米語学科 2015年卒業
元在トロント日本国総領事館(カナダ)派遣員
千葉県立幕張総合高等学校出身



現在、同省勤務の夫の語学研修に同行してスペイン在住だ。マドリード州内のマンサナレス・エル・レアルで

外務省の国際協力局政策課でODA(政府開発援助)の広報を担当する元在トロント日本国総領事館派遣員の吉田沙季さん。ODAの活動を周知するためのコンテンツ制作やイベント開催を行っている。「人気アニメとコラボレーションした『ODAマン』というキャラクターを立ち上げて動画を制作したり、オンラインゲームやツイッターで展開したりしました」派遣員時代はカナダで練習中のフィギュアスケート・羽生結弦選手のインタビ

ュアーに抜擢されるという貴重な機会も。「取材担当者に急な業務が入ったからだったのですが、心が爆発しそうでした」また、現地での上司との出会いは将来のキャリアを選択するきっかけとなった。「夫を帯同して赴任したり、子連れで単身赴任したりする女性館員がいて、こんな道もあるのか!と衝撃を受けました」現在は吉田さん自身も育児休業中だ。「外務省は復職支援も充実しているので、女性が働きやすい環境です」

Photo Album

入省2年目に
担当しました



2018年の太平洋・島サミットでツバルの首相らのリエゾン(連絡、調整、接伴などを行う係)を務めた

Photo Album

G20首脳会議開催国に
出張しました



派遣員時代に政府専用機の前で。総理外遊の応援出張で世界各地へ行く機会も多かった

在外公館派遣員を志す仲間へ

Q 大学の学びや活動で活かされたことは?

A 3年次のブラジル留学です。ストライキでほとんど授業がなかったのですが、友人と交流を重ね、ポルトガル語運用能力を伸ばせました。

Q 派遣員をめざしている仲間へのエール

A 日本の普通が世界のスタンダードではないことを早い段階で実感しました。視野が広がる派遣員はめざす価値のあるポジションです。



東京オリンピック・パラリンピック
競技大会組織委員会 総務局

高橋知恵子さん

TAKAHASHI Chieko
英米語学科 2017年卒業
元在アイスランド日本国大使館派遣員

Photo Album



アイスランドのバイキングフェスティバルで記念撮影

をリサーチし、公邸料理人とメニューを考える業務もありました。また、安倍晋三前首相が在任中に首脳会談でエストニアを訪れた際に応援出張し、外交の最前線に携われたことも印象に残っています」
オリ・パラ終了後のキャリアとしては、将来、開催されるオリンピックに過去大会の経験者として参加する「フューチャーOCOG」や、外務省の専門調査員などを視野に入れている。
「ベースにあるのは、海外に携わりたい思い。まずはオリンピック・パラリンピックの成功に力を尽くしたいですね」



インタビュー動画はこちら！

在外公館派遣員を志す仲間へ

Q 大学の学びや活動で活かされたことは？

A 試験勉強会で、自ら調べて掘り下げる力やプレゼンテーション力が身につきました。仕事をするうえでのベースになっています。

Q 派遣員をめざしている仲間へのエール

A 私は派遣員になるまで海外に1か月以上滞在したことはなかったですが、問題なく勤務できました。ぜひチャレンジしてください。

クロスボーダー
マーケティング事業部

江波戸明香さん

EBATO Haruka
国際コミュニケーション学科
国際コミュニケーション専攻 2014年卒業
元在タンザニア日本国大使館派遣員
千葉県立成田国際高等学校出身

Photo Album



タンザニアを代表する「ティンガティンガ」というアートを扱う工房へ

タンザニアで培ったポジティブ思考で コロナ禍でも結果を出せた

日本の高品質なプロダクトに対し、海外市場からの注目が高まっている。かつて在タンザニア日本国大使館で派遣員を務めた江波戸明香さんは、海外に日本の製品や観光地をPRするマーケティング・コンサルタントとして活躍している。
「最近、群馬県高崎市の魅力や農産物、地元企業製品をシンガポールなどにプロモーションしたり、観光客を誘致したりする仕事を中心です」
得意の英語を活かして生産者や地元企業の人々と一緒に海外に渡り、展示会や

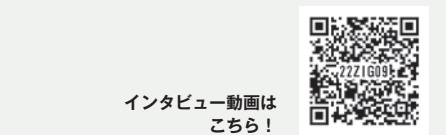
イベントに出展する日々を過ごしていたが、コロナ禍ではこうした機会はすべて失われた。観光客も呼べないうえ、現地の高級飲食店に卸していた農産物の需要もロックダウン（都市封鎖）で激減してしまっただけでなく、訪日できなくなった人たちの日本のモノに対するニーズは、むしろ高まっていると考えました。そこでシンガポールの日系パートナーとコラボして、これまで飲食店に販売していた群馬の農産物や加工食品を一般消費者に販売することにしました」
その狙いは大当たりし、販売額は目標を大きく上回った。困難に直面してもあきらめない姿勢と行動力は、タンザニアでの派遣員時代に培ったと振り返る。
「アフリカでは予定通りに物事が進むことのほうが少ない。うまくいかなかった場合のプランBだけでは足りず、プランCやDぐらいまで必要でしたね。多少のことには動じなくなりましたし、トラブルに直面してもなんとかするとポジティブに考えられるようになりました」
現在の仕事も、タンザニアに駐在する

Photo Album

コミュニケーションは英語で行います



現地職員と打ち合わせする派遣員時代の江波戸さん。配車やスケジュールの調整を丁寧に



インタビュー動画はこちら！

日本人のコミュニティで出会った人からの紹介で始まった。滞在中は現地の人々はもちろん、日本人の人脈も広がった。海外で働き続ける選択肢もあったが、「今度は日本で働いてみたい」就職を決めた。「日本での仕事は何をするにもスムーズでびっくり。でも、信頼関係が重要であることは派遣員と共通しています」
ゼロから企画を立てて実行し、結果が見えるのがこの仕事の魅力だと、江波戸さんは言う。今後も「日本の魅力を海外の人々に発信していきたい」と意気込む。

在外公館派遣員を志す仲間へ

Q 大学の学びや活動で活かされたことは？

A 派遣員試験の勉強会は仲間と励まし合い、4年間で一番濃い時間でした。苦手な理数系の問題も丁寧に教えていただきました。

Q 派遣員をめざしている仲間へのエール

A 着任後にスワヒリ語を学び、いろんな場所を訪れるのが楽しくて任期はあっという間。ぜひチャレンジしてください！

多様性をもつコミュニティで 円滑なコミュニケーションを図る

2年間、在アイスランド日本国大使館で派遣員として勤務したのち、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 (TOCOG*) で働く高橋知恵子さん。「組織委員会には、過去のオリ・パラをはじめ、さまざまなスポーツイベントに携わってきた外国籍のスタッフが多くいます。私は主にそうした方々の打ち合わせなどに同席し、通訳などコミュニケーションのサポートをしています」
ほかにも、職場には障がいがある人、企

業から出向してきた人など、さまざまなバックグラウンドのスタッフがいる。「多様性をもったコミュニティでいかにかという点において、派遣員の経験がとて役立っています」
高橋さんが派遣員をめざしたきっかけは、3年生になってすぐ、在外公館派遣員募集の案内を大学で見たことだった。「海外に行きたい気持ちは強かったのですが、当時は海外の大学で勉強したいことを見つけられませんでした。言語を学ぶのは神田外語大学で十分足りていたので、留学は選択肢になかったんです。そのときに派遣員制度を知って、海外で仕事ができる点に引かれました」
すぐに大学の試験勉強会に参加し、見事合格。北極圏の南に位置するアイスランドに赴任し、官房班で主に要人訪問のサポート、経理や会計を担当した。「大雪の中、深夜に車を運転して空港まで要人を迎えに行くこともありました」
さらに少人数の大使館ということもあり、広報など幅広い仕事も経験できた。「会食時にはゲストが思想・宗教や体質などの理由で食べられないものがないか

英語運用能力を活かして挑戦しました！

Photo Album



派遣員任期終了後、日本で開催されたアフリカ開発会議でリエゾンを担当



世界を舞台にキャリアを切り拓こう

グローバル・コミュニケーション研究所

神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所では、在外公館派遣員をめざす学生に向けて勉強会を開催しています。



神田外語大学
グローバル・コミュニケーション研究所
久保谷 富美男先生
KUBOTANI Fumio
(アカデミックフェロー/
元在オランダ日本国大使館派遣員)

Message

異国で働く貴重な2年間は キャリアアップのカギ

グローバル・コミュニケーション研究所には「学んだ外国語を活かして、海外で活躍したい!」という目標を持った、多くの学生が相談に訪れます。

学生たちには、選択肢の一つとして外務省在外公館派遣員制度・試験を紹介しており、任期は原則2年で、日本国大使館などの補佐業務にあたる傍ら、国際社会での経験を積み、友好親善に寄与するという制度の趣旨を理解した希望者には、試験の対策として「∞」グローバル教養講座を実施しています。

派遣員試験に合格した人は、希望していた国、もしくは想像もしていなかった「運命的な」国に赴任します。そこで外交のサポート業務を通して世界を見、異なる考え方や多様な文化、また現地の人々

やそのライフスタイルに直接触れて自分を磨き、加えて社会人としての責任と厳しさを学びます。

任期終了後のキャリアは、必ずしも保証されているわけではありません。しかし、人生100年と言われている時代に、この2年間を無謀な冒険だと考える必要はまったくないと私は思います。現実に本学の派遣員OB・OGたちは、その後の人生においても個々のつぼみを大きく開花させて、現在もたゆみなく前に向かって歩んでいます。

グローバル・コミュニケーション研究所は、これからチャレンジしようとする在学生、卒業生、受験生の皆さんのために学びの機会を用意し、いつも扉を開けて待っています。

世界で活躍する先輩たちに続こう!

在外公館派遣員試験勉強会 「∞」グローバル教養講座

在外公館派遣員になるためには、何を学べばいいのだろう。その支援としてグローバル・コミュニケーション研究所は、受験希望者たちが共に学び、成長する機会を設けています。



「∞」グローバル教養講座は、「∞(=無限大)」の皆さんが、「∞」の領域(内外)にわり、「∞」に学び続けることを願ってこの講座名としました(久保谷先生)

派遣員には、異なる文化をもつ国で業務を遂行するための幅広い視野と教養に加え、高いコミュニケーション能力や調整力が求められます。このため、選抜試験は筆記試験に加えて人物重視の選考となる傾向が強く、付け焼き刃の受験対策は通用しません。

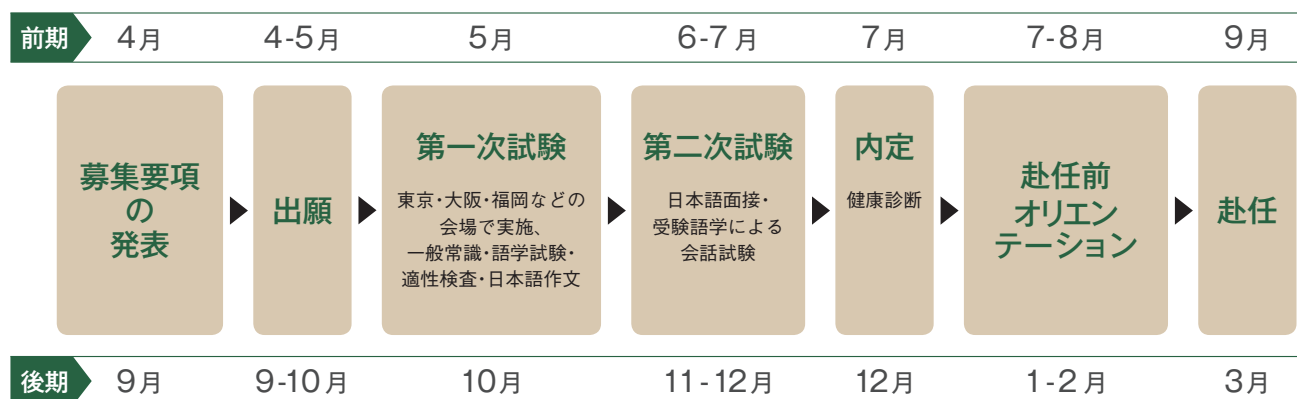
勉強会は、筆記試験の勉強に加え、海外で働くために必要な能力を身につける

「∞」グローバル教養講座」、面接にも役立つ「現代キーワードをプレゼンテーションする!」の二つの講座で構成されます。これらの講座の狙いは三つ。①文系・理系の枠を超え、多くの分野を統合したグローバルな教養を身につける。②多様な文化的背景をもつ学生・教員・職員との出会いの場を設け、相手の立場で物事を考える力を養成する。③日本語できち

んと意見や提案を効果的に発信できるプレゼンテーション力や文章力を養う。

筆記試験のためだけではない、その先にある「人間力」の養成をめざします。これからは数多くの合格者を出し、在外公館の現場でも高く評価されるよう、志を共にする仲間との学びの機会を設け、ほかにはない独自の支援を続けていきたいと考えています。

外務省在外公館派遣員 選抜試験 年間スケジュール



※募集についての詳しい内容及び外務省在外公館派遣員制度については、一般社団法人国際交流サービス協会ホームページ (<http://www.ihcsa.or.jp/>) をご参照ください。

グローバル化の進展に伴い、従来の研究アプローチでは捉えきれない新たな課題が浮上ってきています。グローバル・コミュニケーション研究所は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」という神田外語大学建学の理念を念頭に、グローバル化によって生じた社会、政治、経済、法律、国際関係に関わる諸問題、ならびに言語やコミュニケーションに関する諸問題を学際的に捉え、研究、教育、啓蒙活動に従事することを目的としています。

神田外語大学 グローバル・コミュニケーション研究所

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1 神田外語大学1号館2F
TEL:043-273-2324 FAX:043-273-2324
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/labo/gci/>